

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2023年 7月 14日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 藤 洋作 様

所属部局・研究科 京都大学・医学研究科

職名・学年 博士後期課程・1年

氏名 岡田 紗也花

助成の種類	令和5年度・国際研究集会発表助成			
研究集会名	The 28th Annual Congress of the European College of Sport Science			
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()			
発表題目	Clarification of soft tissues associated to knee extension limitation in patients with knee osteoarthritis			
開催場所	フランス・パリ			
渡航期間	2023年 7月 2日 ~ 2023年 7月 9日			
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()			
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円		
	使用した助成金額	350,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した経費総額をご記入ください)	費目	金額 (円)	
		航空運賃	214,325	
		宿泊費	86,585	
		滞在費	49,090	
学会参加費		0		
その他	0			
以上に助成金を充当				
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 国際研究集会へ参加することは、研究者として積むべき経験ですが、費用の面でかなり敷居が高く感じていたため、今回の助成を受けることができとても光栄でした。今後も、可能な限りこのような助成金応募の機会を増やしていただくと、海外での研究成果発表を視野に入れ積極的に研究活動に取り組めると思います。私は今回の研究集会への参加で、国内の学会ではできない多くの経験をすることができましたので、今後の研究活動に一層精進して参りたいと思います。			

成果の概要 / 岡田 紗也花

申請者は、今回の国際研究集会への参加により主に 3 つの成果および経験を得ることができた。まずは、初めて国際研究集会で研究成果を発表する機会を得たことである。申請者は、これまで国内での学会発表にとどまっていたが、今回初めて国際研究集会へ参加し、世界で活躍する研究者に向けて発表することができた。そして、自身の研究の発展や研究者として成長するための今後の課題に気付かされた。具体的には、自身の研究に対してこれまでとは異なる視点からの意見を得ることができたこと、様々な研究者の論理的思考に触れることができたことがある。また今後は、国際集会でさらに深い議論をすることができるための英語能力を高める必要があると考えるに至り、英語能力の重要性も実感することができた。

次に、海外の様々な分野の研究者の発表を聞くことや彼らとのコミュニケーション機会を通して、様々な学術的視点や最近の研究の動向や知識に触れることができたことである。申請者が参加した European College of Sport Science (ECSS) Paris 2023 では、2024 年に開催されるパリオリンピックを見据えて幅広い分野の専門家が招待され、プレナリー講演、招待講演、交流講演あわせておよそ 110 のプレゼンテーションが行われた。このように ECSS は規模が大きくスポーツ科学を中心としたあらゆる分野の研究者が集う学術集会である。申請者は特に、痛みや炎症に関する生理学的分野や運動のパフォーマンスに関連する心理学的分野の発表に興味を持ち、聴講した。これらは申請者の研究に基礎的な部分で関わる重要な話題であり、今後研究を進めるうえで役立つことのできる知識を得ることができた。

最後に、ECSS には毎年多くの日本人が参加しており、国際的に活躍する日本の研究者との関わりを構築することができたことである。今年の ECSS では、Young Investigators Award (YIA) という賞で日本人研究者が第 2 位にノミネートされ、何名もの日本人研究者が座長を務めるなど、多くの日本人が活躍しているのを目にした。彼らとの意見や情報の交換を通して、今後の進路選択など、現状や将来に関する視野を広げるきっかけを得ることができた。